

第6期 事業報告書

期間：令和6年11月1日～令和7年10月31日

1 総括

第6期はメイン事業である「とことこシリーズ」を、延ばす（売上・閲覧数など）ことを目指さず、維持することを目的とした方針に切り替え、役員も所属する市民ライターも無理なく活動する形で運営した。このため、第5期まで注力していた、補助金・助成金事業へのチャレンジ、「高梁川流域ライター塾」の開催も取りやめたが、最終的には以下の要因により、一部役員に負担が集中する形となった。

- 倉敷とことこの記事数アップ（月20～30本の記事公開が「普通」になった）
- 助成金・補助金に申請したい他団体からの支援・協働要請（主に情報発信・ICT関連）

法人の運営歴が5年をこえたことによる信頼度アップに加えて、特に倉敷エリアにおける「倉敷とことこ」の知名度アップが要因と思われる。案件化していないものでも相談数は増加傾向にある。

無理なく細々と活動し「潰さない」ことは大切だが、同時に「積み上げた信頼を生かし、責任を持って運営する」ことも重要であるということを実感する1年となった。

2 収支

経常収支として、220,118円の赤字となった。前期に続く赤字となったが、これは今期見込んでいた売上が顧客事情・トラブル対応などにより来期請求となったため、特に問題ないと判断している。

売上は予算に対して約170万円増えているにもかかわらず赤字となった要因としては、外注比率の高い案件が多かったこと、また役員の業務用スマートフォン・パソコンを購入するなど、機材投資を行ったことがあげられる。来期以降、機材購入は大幅に減る見込み。

3 実施した事業

3-1：地域情報の収集・整理・保存とウェブ等を活用した情報公開・発信事業（公益目的事業）

倉敷市地域おこし協力隊受入事業

2023年12月1日から着任している地域おこし協力隊（高石真梨子・岩佐りつ子）の活動支援を引き続き行った。今期は活動2年目となり、倉敷とことこのライター活動の割合は減り、任期終了後を見越した活動サポートが中心であった。

任期は2026年11月末日となるが、現在のところ2名とも倉敷に残り、倉敷とことでライター活動をおこないながら、自身の活動をすることになる見込み。

メディア運営事業（とことこシリーズ）

倉敷とことこ・備後とことこの既存メディア運営を行った。総括にも記載した通り、倉敷とことこの記事数増加、備後とことこの記事数減少が顕著となっている。

メディア	今期公開記事数	前期公開記事数	前期との比較
倉敷とことこ	271 本	248 本	+23
備後とことこ	46 本	57 本	-11
合計	317 本	305 本	+12

※公開記事数は既存記事の最新化も含む

倉敷とことこについて、前期は地域おこし協力隊2名が月平均10本程度の記事を書いた結果増加したが、今期は2名で5本程度に減少しても、全体として記事数が増加した。これは、高梁川流域ライター塾2024修了生のライター加入が相次いだため、協力隊の記事数減を、新規ライターが補った形となった。特定ライターに依存するのではなく、多くの人が活動することでの記事数増加であり、理想的な形と言える。

対して備後とことこは、前期よりもさらに記事数が減り、ライター加入よりも離脱の方が多い状況となっている。要因の一つとして、倉敷が行政など地域との関わりが深まっているのに対して、備後は地域との関わりが薄いことがあげられる。複数エリアを束ねる「広域メディア」の宿命とも言えるが、この差を埋めることはもはや不可能と思われる。

来期以降は「メディア間格差があること」を前提に、運営方針を検討することとする。

地域の情報発信者育成事業（高梁川流域ライター塾）

前期からの継続事業として、市民ライター育成講座「高梁川流域ライター塾 2024」を実施した。

講座名	開催期間	申込者数
高梁川流域ライター塾 2024	2024年9月1日 ～2024年10月5日	107名

高梁川流域ライター塾 2024 は「最終回」と位置付け、受講料も 12,000 円に値上げし倉敷市で開催したが、現在の形になってから毎年 100 名以上集客できるセミナーに成長した。修了生も 50 名で、とことこライター・Yahoo!ニュース エキスパートとして活動する方も多く、市民ライター活動の第 1 歩として選ばれていることが伺える。

今期は開催を見送ったが、次回開催に関する問い合わせも増えてきており、来期以降での開催を検討する必要には迫られている。

地域の情報発信者育成事業（市民レポーター教室）

「倉敷市市民企画提案事業」としての開催は、2025 年 3 月末日をもって終了した。補助金事業ではなくなったが、オンラインセミナーとして今期も引きつづき開催しており、活動は細々と継続している。

今期の受講者数、記事投稿数は以下の通り。

受講者数	市民レポーターの記事数
28名	21本

児童養護施設への PC・スマホ貸与

令和 4 年度以降は諸般の事情により、PC 提供元であるピープルソフトウェア株式会社からの貸与が大幅に減少したため、2021 年 12 月の貸与を最後に過去に貸与したスマホのサポートが中心となっている。今期も同様の動きで、問い合わせベースでの対応が中心であった。

3-2：地域の情報発信・活動支援事業（収益目的事業）

- 記事制作業務（福武教育文化振興財団・岡山県教育委員会など）
- オンライン配信業務（大原芸術財団・倉敷市社会福祉協議会など）
- 動画制作業務（ピープルソフトウェア株式会社など）
- SNS 投稿文・写真制作業務（倉敷市など）

主に上記事業を行った。

基本は発生ベースで対応しているが、前年からの継続案件が増えており、これがベースラインの売上として寄与するようになった。今期のトピックとして近年のトレンドを受けて、動画制作の相談を受けることが多くなった。動画案件はオンライン配信業務を委託している、株式会社 Stageperson と連携しながら、できる範囲で対応を進めている状況。

収益事業は問い合わせ数も増えてきており、やみくもに受けるのではなく、現在は以下の方針で受ける方向としている。

- 行政・NPO・公益団体など、公益的な活動をおこなっている事業者の支援に繋がるもの
- コンテンツ制作作業を、役員を含めて、岡山県中心に地場で活動する人・団体に委託できること（＝地元クリエイターの支援に繋がる）

ただし、前期に引きつづき収益事業をさらに延ばすには、マネージメントができる役員の対応工数確保が課題となっている。

3-3：交流会事業

2023年から開催している、「市民レポーター・ライター交流会」を2024年12月7日に開催した。3部構成で開催し、それぞれの参加人数は以下の通り。

1. 相談会：16名
2. 倉敷考古館ツアーライター：24名
3. 忘年会：22名

4 会員・寄付募集について

今期から事業継続と公益法人化を目指した取り組みとして、会員制度を整備し寄付募集を本格的に行つた。今期の寄付収入・会員数は以下の通り。

費目	金額	詳細
会費	442,000 円	58名 正会員 9名 市民ライター会員 9名 賛助会員 40名
寄付金	552,400 円	企業協賛：5社 その他は単発の寄付
合計	994,400 円	

5 公益法人化について

今期は前述の会員基盤・寄付募集の強化以外には目立った活動はおこなっていない。これは、会計方式を「公益法人会計」に切り替えない限り、申請の舞台にすら立てないためである。このため、今期は顧問税理士に相談の上で、7期より顧問税理士を変更し、公益法人会計に対応した新たな会計ソフトの導入を決定した。

7期より公益法人会計に対応した経理を行い、7期の決算が完了して初めて申請の舞台に立てる見込み。つまり、申請は最速でも2027年になる。

6 体制

6期は以下の体制で運営した。

代表理事	戸井 健吾
副代表理事	岡本 康史 西山 博行
業務執行理事	森田 美紀 佐藤 千幸 小溝 朱里
理事	杉原 佑友太 池上 慶行 後藤 寛人
監事	坂ノ上 博史 中原 牧人

以上。